

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	新規 in vivo 可視化技術を用いた真核細胞における遺伝子情報発現機構の解析	研究代表者名	古久保 哲朗
-------	--	--------	--------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ () 概ね予定どおり達成した
- ウ (×) 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
出芽酵母ではある程度の成功をおさめたが、動植物個体では不十分な結果で終わった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ (×) 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
出芽酵母で NMR を使った新しいイメージングを持ち込んだことは評価できるが、他の関連分野にまで貢献できることを示すに至っていない。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
一応の成果が得られているが、波及効果が見込まれる新しい領域を拓いたとは言えない。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
開発したシステムの積極的な公表と技術普及の促進が期待される。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
×	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

NMR の応用による酵母細胞でのポリリン酸の *in vivo* 可視化で一定の成果を挙げたが、この技術が動植物個体での遺伝子発現のイメージングに利用できるか、また他の手法では得られない情報を与える方法論であるかを示すに至っていない。開発した技術の公表、普及への一層の努力が望まれる。